



藤井サチさん(以下F): こんにちは。HISTORYのお時間です。この番組は様々な業界でご活躍されている方々からお仕事のこだわりについてお話をお伺いしていく番組です。MCは私、藤井サチです。本日のゲストは倒産寸前の会社を立て直した情熱者、東名鍛工株式会社 代表取締役の宮嶋俊介さんです。よろしくお願いします。



社長(以下M): よろしくお願います。

F: 東名鍛工さんの事業内容を教えて頂いてもいいですか?

M: はい、我々はですね、鍛造という仕事をやってまして、鍛造というのは鉄を扱う仕事なんですけど、鉄を熱くしてですね、温度で言うと1200°Cくらいにまで加熱してですね、機械でドンドンとつぶすと

というか、鉄は叩けば叩くほど強くなるんですけど、鉄を叩いて形を変えて強いものを作るとというのが鍛造というものです。

F: どんなものが作られるんですか?

M: えと、我々はシャフト部品をつくってまして、シャフトというのは回転するところに使われるんですけど、タイヤがついているところにもシャフトがついてますので、タイヤが回るとシャフトを伝わって、中のギヤボックスなんかに力が伝わっていくんですけど、そういうシャフト部品というのは基本的に長い製品が多くて、そのシャフトを作れる会社って結構少なくってですね、長いと特別な機械で鍛造しないといけないので、我々はシャフト部品の鍛造専門メーカーとして商売をしています。

F: へえ、そんなんですね。様々なところで使われるシャフトを作るのが強みなんですね。

M: はい、そうです。



## 【レッツゴーではなくフォローミー】

F：今のお仕事にかかわるきっかけって何かあるんですか？

M：私の兄が社長をやってまして、7年前に東名鍛工を引き継いだんですけど、当時はですね、正直…ものすごく…ものっすごく汚い会社でしたね。例えばですね、床にも2cmくらいのヘドロが床一

面についてるんですが、こんな汚い状態で営業したらむしろマイナスと思ひまして、営業するのは会社をとにかくキレイにしてからと決めました。ひたすらバールと

のようなものと、鉄ブラシで床に張り付いた油混じりのスケール、スラッジって言うんですけど、床面をキレイにしていきました。誰に聞いても「掃除しても無駄ですよ」と言われ続けながらも、根気よく掃除を続け、2年後くらいに初めて床面に色が塗れたときは感動して思わず記念撮影をしてしまいました（笑）

F：わあ、すごいですねえ、2年もかかったんですねえ。

M：はい、50年の汚れを落とすのに2年もかかっちゃいました（笑）

F：経営再建のときと今と、大切にしていることってなにかありますか？

M：「レッツゴーではなくフォローミー」というのを自分のモットーとしています。何かをやるうとするとき、困難であればあるほど必ず最前線に立って皆と一緒にオールを漕ぐようにしています。東名鍛工をキレイにしようと思っても社員さんだけに「キレイにしとけ」と言っているだけだったらこんなに急激には変わらなかったと思います。率先垂範というか「俺についてこい」という精神でやってきた結果、今、こうやって会社を立ち直らせることができたのだと感じています。

## 【面白い会社に 社員を幸せに】

F：今後の目標は何かありますか？

M：面白い会社になりたいと常に思っておりましてですね、例えば作業着にしても皆さんオシャレは好きかと思しますので、オシャレな作業着を皆に支給することで気分良く仕事して



もらったり、自社で何でもいいのでメーカーになって世に面白いモノを送り出したいと思っています。具体的に何をするかは決まっていますが、そういう思いは常に持ち続けていまして、本業はもちろん大事ですが、ちょっとばかしのおふざけというか遊びココロを持ちながら、仕事をしていきたいと思っています。そうすることが面白い会社になっていくと思っています。

F：すごいステキですね♪社員さんを幸せにしたいというお気持ちがとても伝わってきました♪

M：元々ものすごく汚かった会社なので、見た目もようやくマシになってきたレベルで、こんな会社に入りたいと思わないかもしれませんが、人に関してはですね、私なりに愛情の呼吸MAXで接してましてですね、社員さんが社員さんのお子様とかお友達に「東名鍛工いいよ」とオススメしてくれるような会社にはしていきたいと思っています、はい。



F：本日のゲストは東名鍛工株式会社 代表取締役の宮嶋俊介さんでした。ありがとうございました。

M：ありがとうございました。

(2021年7月26日 ON AIR)

